持続可能な社会の実現に向け私たちにできること



徳島文理大学ハンドブック項目(案)

人間生活学部 人間生活学科

○喜多海斗(4年)

出水 咲妃(2年)

野田 帆ノ香(2年)

加茂 海夢(1年)

児島 千咲(1年)

弘中 茉実(1年)

総合政策学部 総合政策学科

岡本 隼(3年)

角瀬 由衣(3年)

武市 梨花(3年)

西岡 瑶介(3年)

短期大学部 食物専攻

板東 穂香(2年)

村上優結(2年)

わたしたちのコンセプト

- これまでに取り組んで来た内容をバージョンアップする
- ゼロ・ウェイストな暮らしを推進する
- わたしたちが続けられる(続けたいと思える)持続可能な活動をする







ハンドブック項目(案)

7つの視点

ゼロ・ウェイスト の推進



大学の学びを活かした 社会課題の解決



これまでの取組み 大学食堂での「TEBLE FOR TWO」

・2010年~今年で13年目

・「世界の飢餓と肥満は同時に解決できる」 日本発の社会貢献事業

毎週火曜、食堂で「ヘルシーランチ」(450円)を提供し、内20円はアフリカの給食支援へ

「TABLE FOR TWOアワード2022」PR・啓発部門で入賞!





これまでの取組み② 短期大学部生活科学部食物専攻によるジビエレシピ

- ・2015年~今年で7年目
- 短期大学部食物専攻では、2015年から森林での食害防護ネット張り、 鹿肉の解体作業、鹿肉レシピの開発を継続的に実施しており、2020 年には徳島県のレシピグランプリで優秀賞を受賞、同年に林野庁から 森林環境保護に貢献した功労者として表彰された。
- 毎年、食堂やカフェでジビエ料理が販売される。

















これまでの取組み 3 人間生活学科による上勝町でのフィールドワーク

・2020年~今年で3年目

- 人間生活学科では、2003年に日本で初めてゼロ・ウェイスト宣言をした徳島県上勝町において、1年次から継続的にフィールドワークを実施している。昨年度は、茅葺き民家を復元した拠点づくりの支援を行った。
- 今年度は教育機関初の上勝阿波晩茶の桶オーナーとなり、茶摘みから 袋詰めまでを一貫して学生が行う阿波晩茶づくりに取り組んでいる。













ハンドブック項目(案)



■MYボトル・MY箸・MYバッグを持参する ×

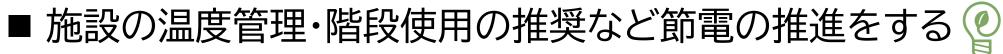




- ■EVの不使用や教室の消灯など省エネ行動をする♀
- ■シェアリングサービスを活用する (**) ×
- ■無料の阿波晩茶給湯スポットを活用する → ② 図 1
- ■ジビ工料理を食の選択肢の1つに選ぶ 4 🙀 👔

■ひとり暮らしの知恵BOOKを活用する①② ② ↓ ↓ ↓ ◆ ▲

: 大学でできること





- 使わなくなった物をシェアできる仕組みをつくる 🗭 🔯
- 無料の阿波晩茶給湯スポットを設置する → 🛱 🔞



地域でできること

- 発案したエシカル商品にQRを付けて情報発信する①@☆☆~~~
- 地域イベントに参加してゼロ・ウェイストな暮らしを推進する

